

マレーシア研究関係文献目録 (2002年1月～12月)

この文献目録は、2002年1月から12月までの期間に発表されたマレーシア研究に関わる文献を集めたものです。全体を「書籍の部」と「論文の部」に分け、それぞれ著者・編者の五十音順に配列してあります。

「マレーシア」については広い意味で捉えてあるため、現在の国家の枠組みで言えばインドネシア研究やフィリピン研究などに分類されうるものも一部含まれています。また、「研究」についても狭く捉えず、学術論文でなくてもマレーシア社会に対する理解を深める上で役立つと思われるものも含めています。原則として日本国内で発表されたものを対象としていますが、JAMS 会員が国外で発表したものも採録してあります。

この文献目録は、JAMS 会員から編集部へ寄贈された書籍および論文をもとに、編集部で補った文献一覧を加えて作成したものです。目録作成に当たっては、西芳実、鈴木絢女の両氏に有益な情報提供をいただきました。また、JAMS 会員から寄贈された以外の文献については、西芳実、高地薫、東條哲郎、真田実季子の各氏の協力によって多くの部分を収集することができました。書籍・論文をご寄贈くださいました JAMS 会員のみなさん及び目録作成・文献収集に協力くださった上記の会員各氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

また、この文献目録に採録されるべきでありながら抜け落ちている文献にお気づきの場合には、編集部までご一報いただければ幸いです。

なお、編集部で現物が確認できた文献については、いくつかのテーマに分けて、文献目録の後で内容を簡単に紹介しています(紹介文中では敬称略とさせていただきます)。評者がそれぞれの問題関心に沿って文献を紹介する方法をとっているため、紹介が文献の筆者の執筆意図と必ずしも一致しないこと、また、同一の文献が複数の評者に取り上げられることがあります。なお、目録に採録した文献をすべて取り上げているわけではありませんが、これは入手が困難で現物確認ができなかったなどの理由によるものであり、内容に対する評価によって採否を決めたわけではないことをお断りしておきます。

【書籍】

- 新井卓治・小野沢純『マレーシア語：マレーシアを旅する』三修社、2002.6。
- アリ・オスマン『今すぐ話せるマレーシア語：入門編』ナガセ、2002.3。
- 加藤誠『マレイの風：異文化の宝庫マレイシアから』文芸社、2002.5。
- 斎藤里美『シンガポールの教育と教科書：多民族国家の学力政策』明石書店、2002.12。
- 田中恭子『国家と移民：東南アジア華人世界の変容』名古屋大学出版会、2002.6。
- Tsubouchi Yoshihiro 『One Malay Village: A Thirty-Year Community Study』京都大学学術出版会、2002.1。
- 西田ひろ子『マレーシア、フィリピン進出日系企業における異文化間コミュニケーション摩擦』多賀出版、2002.2。
- 伴美喜子『マレーシア凜凜』めこん、2002.5。
- ビビアン C『東京じゃらんじゃらん：23歳マレーシア娘のニッポン不法就労日記』角川書店、2002.1。
- 松永典子『日本軍政下のマラヤにおける日本語教育』風間書房、2002.2。
- ムース、ラジェンドラン(萩原康生監訳、田中尚訳)『マレーシアの社会と社会福祉』明石書店、2002.8。
- 森智子『マレーシアの風に吹かれて：未来のかたち』明窓出版、2002.7。
- 安延久美『マレーシア稲作経営の新しい担い手』日本経済評論社、2002.7。
- 安間繁樹『ボルネオ島アニマル・ウォッチングガイド』文一総合出版、2002.8。
- 山口三千也『遠くて近い国マレーシア』文芸社、2002.10。
- 山本節『ハリマオ：マレーの虎、六十年後の真実』大修館書店、2002.3。

【論文ほか】

- 青木裕子「マレーシアにおける地域のごみ管理システム：ペナン州とセランゴール州の実証的比較分析」『横浜国際社会科学研究所』7(3):147-176。
- 青山和佳「ダバオ市におけるバジャウの不平等化：主観的評価による社会的地位の序列に関する分析」『アジア経済』43(5):2-29。
- 青山和佳「フィリピン・ダバオ市におけるバジャウの生活条件：他エスニック・グループとの比較から」『アジア研究』48(2):72-105。
- 安藤正人「日本軍政期英領マラヤにおける記録文書の状況」『史料館研究紀要』33:79-104。
- 井口由布「「主体」形成とマレー語の位置」『言語・地域文化研究』(東京外国語大学)8:137-152。
- 石弘之「木材とヤシ油が破壊するボルネオ島」『グリーン・パワー』282:14-17。
- 石川登「国家の歴史と村びとの記憶：サラワク独立をめぐる」黒田悦子編『民族の運動と指導者たち：歴史のなかの人びと』山川出版社、pp.118-135。
- 石田章「マレーシア：食料増産への方針転換とその背景」『農業および園芸』77(1):137-143。
- 稲正樹「資料 マレーシアの人権委員会」『亜細亜法学』37(1):143-159。
- 岩崎清隆「タイ、マレーシアを訪れて」『作業療法ジャーナル』36(2):157-160。
- 上杉富之「マレーシア・サバ州における「越境」への社会・文化的対応：文化協会の動態に見る民族の再編成」『成城文芸』180:126-73。

- 上田達「バジャウ・ラウトに関する人類学的研究の課題と展望」『年報人間科学』23(分冊1):75-93。
- 内堀基光「民族の運動態における平凡の意味:サラワク・イバン社会とジュガのケースから」黒田悦子編『民族の運動と指導者たち:歴史のなかの人びと』山川出版社、pp.136-154。
- 大形利之「東南アジアに見る宗教的多元主義」『望星』33(1):42-47。
- 奥村みさ「民族衣裳にみるマレー文化の新伝統主義:マレー語女性誌『ジェリタ(Jelita)』を中心に」『アジア女性研究』11:66-74。
- 奥村みさ「マレーシア・カトリック教会におけるポスト・コロニアリズム」寺田勇文編『東南アジアのキリスト教』めこん、pp.227-257。
- Omar Farouk Bajunid「マレーシアにおけるイスラム復興運動の管理:マハティール首相の取り組み」『APC アジア太平洋研究』10:5-21。
- Omar Farouk Bajunid. 「The Muslim Minority in Contemporary Politics: The Case of Cambodia and Myanmar」『広島国際研究』8:1-13。
- 笈正治「日本人、タイ人、マレーシア人の組織行動意欲の比較」『国際関係研究』23(1):129-145。
- 加藤暁子「「ルック・イースト」から20年「欧米に右にならえ」の日本でいいのか:マハティール氏(マレーシア首相)インタビュー」『中央公論』117(2):94-101。
- 金子芳樹「マレーシアにおける多民族統合のジレンマ」『東亜』418:28-36。
- 加納啓良「植民地期の蘭印・英印貿易関係:蘭印側統計からの観察」『東洋文化』(東京大学東洋文化研究所)82:47-76。
- 上藪恒太郎「連想調査によるドイツ、マレーシア、日本の死の意識比較:オスナブリュック、ペナン、長崎における大学生の調査研究」『長崎大学教育学部紀要 教育科学』63:1-14。
- 上東輝夫「日本軍政期の北ボルネオにおけるアピ事件について」『NUCB journal of economics and information science』(名古屋商科大学)47(1):207-213。
- 川島緑「ミンダナオ危機とフィリピン社会」『海外事情』50(3):2-16。
- 川島緑「南部フィリピンの紛争:2000年ミンダナオ危機と平和運動」武内進一編『アジア・アフリカの武力紛争:共同研究会中間報告成果』アジア経済研究所、pp.123-142。
- 北野正徳「1920年代に入る頃のオランダ領東インドのプラナカン華人作家によるマレー語創作小説:タン・ブン・キン(陳文金)に焦点を当てて」『倉敷芸術科学大学紀要』7:273-282。
- 北野正徳「インドネシア独立後のプラナカン華人文学:その創作小説の衰退をめぐって」『南方文化』(天理南方文化研究所)28:43-63。
- 熊谷聡「マハティールの退任で転換期を迎えるマレーシア」『人口と開発』80:30-35。
- 熊谷聡「マレーシア/中国はチャンスか脅威か」『アジア研ワールド・トレンド』8(11):10-15。
- 熊谷聡「マレーシア:知識集約型経済への移行を急ぐ」『アジア研ワールド・トレンド』8(3):20-23。
- 小林世治「マレーシアの中小企業政策:産業政策の視点から」『日本大学経済学部経済科学研究所紀要』32:211-233。
- 権藤与志夫「異文化理解の一駒:マレーシア赴日留学生予備教育事業に参加して」『APC アジア太平洋研究』10:1-4。

- 佐々木伸「オランウータンの森(マレーシア)」『月刊観光』433:82-84。
- 貞好康志「ジャワ華人の統計的プロフィール:200 人の社会・文化的傾向」『国際文化学』7:63-81。
- 佐藤考一「書評論文 マレーシア政治研究の課題:金子芳樹著『マレーシアの政治とエスニシティ:華人政治と国民統合』、上東輝夫著『東マレーシア概説:サバ・サラワク・ラブアン』、フッシン・ムタリブ著『マレーシアのイスラム』」『季刊国際政治』129:202-210。
- 佐藤考一「マレー伝統球技セパ・タクロー(Sepak Takraw)の考察」『シンガポール』2002(2):16-23。
- 沢村信英「アジア・アフリカ間協力と日本の役割:マレーシアの事例をもとに」『国際教育協力論集』(広島大学教育開発国際協力研究センター)5(1):101-107。
- 三王昌代「私の研究ノート 東アジア交流史のなかの「蘇祿(スールー)」」『歴史地理教育』639:78-81。
- 清水芳見「マレー・ムスリムの死生観:ブルネー村落における死者と生者」『総合政策研究』(中央大学総合政策学部)9:1-25。
- シャング、ウィリアム「絵画による旧跡修復活動」『月刊しにか』13(3):112-115。
- 正保勇「マレーシア語の諾否疑問文に就いて」『東京外大東南アジア学』7:1-20。
- 白井義人「マレーシアパームオイル産業ゼロエミッションとグリーンエネルギーの供給」『クリーンエネルギー』11(3):23-27。
- 杉本均「マレーシアの大学教育におけるグローバリゼーションとコアカリキュラム」『大学教育学会誌』24(1):40-45。
- 杉本均「マレーシア:グローバル化する複合社会の公立学校」『比較教育学研究』28:53-63。
- 杉本均「マレーシアの大学教育と大学評価の動向」『大学評価研究』2:43-51。
- 杉山富士雄「北部マレーシアにおける日系企業の研究開発・設計技術の移転とその現状:ペナン州・ケダ州での現地調査を基にして」『経済学雑誌』102(3・4):97-108。
- 砂川和泉「資料 国際司法裁判所判決 プラウ・リギタンおよびプラウ・シパダンに対する主権に関する事件(インドネシア/マレーシア)フィリピンによる訴訟参加許可要請:判決 2001.10.23」『岡山商科大学法学論叢』10:77-108。
- Soda Naoki. "Indigenizing Colonial Knowledge: The Formation of Malay Identity in British Malaya". *IIAS Newsletter*. 29:28.
- 租研事務局「国際課税各国税制事情(マレーシア・シンガポール・ウズベキスタン・インド・アイスランド・スウェーデン・ベルギー・ルクセンブルク・ギリシャ・イタリア・OECD・EU・南アフリカ・米国・コロンビア)」『租税研究』628:111-119。
- 高橋謙三「マレーシアのインターネット事情:マルチメディアスーパーコリドーでの体験から」『ITU ジャーナル』32(2):48-52。
- 高橋(杉村)美紀「調査報告 留学生教育における国際教育協力の可能性:日本マレーシア高等教育大学連合プログラムを事例として」『国際教育協力論集』5(1):125-136。
- 高山宜門「国際課税:マレーシアにおける配当課税制度」『租税研究』635:67-77。
- Tanaka Kyoko(田中恭子)「Chinese Immigrants in Malaysia and Singapore since the 1980s」『アカデミア:人文・社会科学編』(南山大学)74:607-625。

- 田中絹代「マレーシアでの作業療法」『作業療法』21(2):141-146。
- 田中善紀「市民社会とネーションビルディング:シンガポールとマレーシアの市民社会比較分析」『政策科学』9(2):99-111。
- タン・チーベン(河口充勇訳)「中国人の移住、土着化、そしてババ文化の生産」吉原和男・鈴木正崇(編)『拡大する中国世界と文化創造:アジア太平洋の底流』弘文堂、pp.344-376。
- 都丸潤子「「先住民」と移民政策:マレーシアのエスニック関係を例に」加納弘勝・小倉充夫『国際社会 7 変貌する「第三世界」と国際社会』東京大学出版会、pp.109-136。
- 鳥居高「マレーシアの中間層創出のメカニズム:国家主導による育成」服部民夫ほか編『アジア中間層の生成と特質』日本貿易振興会アジア経済研究所、pp.132-168。
- 鳥居高「マレーシア:経済成長と種族間統合の追求」末廣昭編『岩波講座東南アジア史 9 「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、pp.123-154
- 永井鞆江「東マレーシア・サラワク州における食糧・栄養事情について」『松山東雲女子大学人文学部紀要』10:13-32。
- 永井鞆江「ボルネオ島・サラワク州における先住民族の食糧・健康事情」『食生活研究』22(4):32-40。
- 中田考「マレー世界とイスラーム地域研究: PAS(汎マレーシア・イスラーム党)ハーディー・アワン「教書」の「背教宣言」問題によせて」『イスラーム世界』58:63-75。
- 永田聡「マレーシアにおける建築事情の歴史」『BE 建築設備』53(10):40-43。
- 永田淳嗣「「開発と環境」をめぐる新たな文脈:越境するマレーシア企業の農園開発」『科学』72(8):798-800。
- 中村正志「対米テロとアフガニスタン空爆のマレーシア政治への影響」『アジア研トピックリポート』45:125-140。
- 中村正志「マハティール辞意表明の背景とアブドラ副首相の課題」『世界週報』83(29):44-45。
- 中村良隆「マレーシアの裁判制度」小林昌之・今泉慎也編『アジア諸国の司法改革』アジア経済研究所、pp.163-200。
- 西芳実「止められなかった紛争:1998年~2000年におけるアチェ紛争激化の展開と構造」武内進一編『アジア・アフリカの武力紛争:共同研究会中間報告成果』アジア経済研究所、pp.159-175。
- 西井涼子「硬直する身体:南タイにおけるムスリムと仏教徒」田辺繁治・松田素二『日常実践のエスノグラフィ:語り・コミュニティ・アイデンティティ』世界思想社、pp.235-264。
- 根本直子「韓国、マレーシア、タイ…:アジア諸国にみる金融再生の条件」『金融ビジネス』208:54-57。
- 信田敏宏「「間違った結婚」をめぐるポリティクス:オラン・アスリのアダットをめぐる一考察」『人文学報』(東京都立大学)328:61-93。
- 橋本文子「マレーシア:パートナーとして身近になった中国」『ジェトロセンサー』52(624):106-107。
- 橋本雄一「マレーシアにおける日系企業の進出と知的産業クラスターの形成」『北海道大学 文学研究科紀要』107:113-169。
- Hamayotsu Kikue. "Islam and Nation Building in Southeast Asia: Malaysia and Indonesia in Comparative Perspective". *Pacific Affairs*. 75(3):353-375.
- 原不二夫「書評 杉村美紀著『マレーシアの教育政策とマイノリティ:国民統合のなかの華人学校』」『アジア経済』43(4):81-84。

- 原不二夫「マラヤ連合の頓挫とマラヤ連邦」後藤乾一編『岩波講座東南アジア史 8 国民国家形成の時代』岩波書店、pp.203-224。
- 坂東達郎「急減するマレーシア向け直接投資」『アジア・マンスリー』2(18):3-4。
- 坂東達郎「マレーシアで増加する不良債権」『アジア・マンスリー』2(15):1-2。
- 坂東達郎「先行き不透明なマレーシア・リングの固定相場制」『アジア・マンスリー』1(11):5-6。
- 弘末雅士「インドネシアの「聖戦」」池端雪浦編『岩波講座東南アジア史 7 植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』岩波書店、pp.25-49。
- 福田隆真、佐々木幸「マレーシアにおける美術教育の鑑賞について」『教育実践総合センター研究紀要』13:53-68。
- 福田隆真「東南アジアの教育の現状と伝統:シンガポール、マレーシア、インドネシアの事例」『初等教育資料』760:68-71。
- 福田利之「ムラカ王国とジャワ商人」『東洋史学論集』(立教大学大学院文学研究科史学専攻)4:22-37。
- 藤井純一「最新税務事情:移転価格税制、ロイヤルティー、還付金問題」『ジェトロセンサー』52(622):62-64。
- 藤井康秀・三浦一郎・河野辺雅徳(訳)「解説 タイ・マレーシア移転価格税制と日系企業の対応(前編)」『International Taxation』22(10):36-41。
- 藤崎成昭「マレーシアの環境問題と規制動向」『環境管理』38(9):816-824。
- 藤本彰三・宮浦理恵「マレーシア・サバ高地における野菜栽培の技術と経営:クダサン地域での農家調査結果」『東京農業大学農学集報』47(2):111-119。
- 舟橋良治「マハティール首相の唐突な辞意表明:アブドラ副首相への政権委譲は波乱含み」『世界週報』83(28):6-9。
- 舟橋良治「円満な引退を目指すカリスマ:マレーシア マハティール首相」『外交』18(3):6-7。
- 松永典子「在外日本人の異文化理解・受容に関する一考察:マレーシアにおける青年海外協力隊員の事例を通して」『Polyglossia』(立命館大学言語教育センター)5:51-57。
- 松永典子「日本軍政下のマラヤ(1941~45年)における日本語教育の性格:マラヤ軍政監部・ジャワ軍政監部編纂の日本語教科書の比較から」『日本語教育』113:53-62。
- 松原真沙子「地方研究(difang yanjiu):マレーシアの華語小学校における社会科教育」『千葉敬愛短期大学紀要』24:23-43。
- 松本さとみ「日本企業の海外進出における親子会社関係:マレーシア子会社の報告義務から」『法政大学大学院紀要』49:187-202。
- 水越武「世界の原生林 ボルネオ・ダナンバレーの山地熱帯雨林」『グリーン・パワー』284:22-23。
- 溝口歩「英領マレーにおける華僑のゴム事業について:1900年から30年のパイナップル事業と関連させて」『歴史研究』39:95-114。
- 宮本謙介「マレーシア、クアラルンプール首都圏の事例分析」『経済学研究』51(4):527-546。
- 村上公久「熱帯林消失の現状と保全対策:ボルネオ サバ州の森林消失と SAFODA の森林保全戦略」『聖学院大学論叢』14(2):177-202。
- 村山真二「東南アジア諸国におけるイスラム過激派の動向:ジェマア・イスラミアの活動概要等」『治安フォーラム』

- 8(7):14-21。
- Mohd Ridhuan Ismail「記念講演 マレーシアにおける下水道事業の民営化の経験」『下水文化研究』14:62-71。
- 守政毅「東南アジアの華僑・華人と企業の発展」『経済論究』(九州大学大学院経済学会)113:89-108。
- 森井淳吉「大規模稲作農業開発と農民層の動向:マレーシア・ケダ州 Muda 地区の1960~1985年」『阪南論集 社会科学編』37(4):121-130。
- 柳雄「マレーシアにおける下水道事業民営化と国営化」『下水道協会誌』39(474):74-79。
- 矢部孟「北スマトラ石油開発協力(NOSODECO、ノソデコ)成功の軌跡とそれを支えた 3 賢人」『天然ガス』45(4):24-36、45(5):21-35。
- 山下晋司「エコツーリズムの政治経済学:マレーシア・サバ州のケースから」『科学』72(7):701-705。
- 山中弘・林淳・安藤充「マレーシア華人社会における宗教の諸相」吉原和男・鈴木正崇(編)『拡大する中国世界と文化創造:アジア太平洋の底流』弘文堂、pp.318-343。
- 山本信夫「日本・東南アジア海域における 9~10 世紀の貿易とイスラム陶器」『国立歴史民俗博物館研究報告』94:85-144。
- 山本博之「英領北ボルネオ(サバ)におけるバジャウ人アイデンティティの形成」『東南アジア 歴史と文化』31:57-78。
- 山本博之「カダザン人のナショナリズムとエスニシティ:英領北ボルネオ(サバ)における収穫祭の成立」『ODYISSEUS』(東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究)』6:41-60。
- Yamamoto Hiroyuki. ““Foreigners’ Nationalism” in Malaysia: Donald Stephens and K. Bali in Making of Sabah Nationhood”. *Sejarah*. 2001. 9:49-70.
- 吉田好孝「美しい橋には王妃の名前がふさわしい:新技術とイスラム伝統様式の調和を目指すマレーシア」『橋梁と基礎』36(10):43-48。
- 吉野耕作「エスニズムとマルチエスニシティ:マレーシアにおけるナショナリズムの 2 つの方向性」小倉充夫・加納弘勝編『講座社会学 16 国際社会』東京大学出版会、pp.85-119。
- 吉野耕作「英語化」とポストコロニアルなアジア:マレーシアの現場から見た傾向」『思想』933:162-180。
- 廖韻清「マレーシア語の kena 構文について:日本語の間接受身との対応」『広島大学日本語教育研究』12:123-131。
- 廖赤陽「書評 原不二夫著『マラヤ華僑と中国:帰属意識転換過程の研究』」『アジア経済』43(10):75-79。
- Lim Poh Chin・牧辰人・河野辺雅徳(訳)「解説 タイ・マレーシア移転価格税制と日系企業の対応(後編)」『International Taxation』22(11):38-44。
- 林華生「アジア金融危機とマレーシア華人経済」『アジア太平洋討究』4:139-147。
- 渡辺泰介・宮崎清隆「マレーシアにおける有害廃棄物管理」『生活と環境』47(8):72-77。